

2024年06月25日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【ドル/円が、160円に迫っている】

ドル/円が、160円に迫っている。

「円キャリー・トレード」が拡大を続けているのだ、と考えます。

今年の年初(2024年1月初旬頃)のドル/円が、140円程度だったことを思い起こせば、この半年で、ドル/円は20円程度の円安が進行した、と言える。

このドル/円の約20円の上昇の主な要因は、「円キャリー・トレード」と言っても過言では無い、と考えます。

+++++

クロス円の代表として、ユーロ/円を俯瞰しよう。

今年の年初(2024年1月初旬頃)のユーロ/円は、155円程度だった。

今日(2024年6月25日)のユーロ/円の水準が、171円程度なので、ユーロ/円でも16円程度の円安が進行している。

「円キャリー・トレード」が拡大を続けている証左と考えます。

+++++

+++++

振り返ると、2024年4月29日(月曜日)は、祝日「昭和の日」で、東京外国為替市場は休場だったのに、財務省は、「ドル売り円買い」の為替介入を実施した。

この日(2024年4月29日月曜日)の日本時間の午前中に、ドル/円は160円台前半に上昇した。

ところが、この日(2024年4月29日)の日本時間の午後に、ドル/円は155円台に大きく急落した。

2024年4月29日(月曜日)の夕方、財務省の神田財務官は、「為替介入の有無については、ノーコメント」と述べている。

しかし、後日の報道を見ると、5兆円規模の介入が実施された可能性が高い。

++++
++++

そして、先月（2024年4月30日、5月1日）のFOMCでは、政策金利据え置きを決定した。

++++

5月1日のFOMCでの政策金利据え置き発表後、30分ほど経過すると、再び、「為替介入」が実施された、と考えます。

ドル／円は、再度、大きく急落した。

++++
++++

文頭に述べた通りに、介入が実施されたと推察される水準（ドル／円 160円）に迫っています。

再び、「為替介入」があるのか、無いのか、誰しもが大いに注目するところです。

++++
++++

ただし、『相場の大きさ』は、事前には、誰にも、わからないことを忘れてはいけず、と考えます。

『相場の大きさ』は、その時の、市場参加者達の行動によるからだ。

重要なその水準から、もう一段買い上げる大口の投機筋が、居るか？否か？

換言するならば、ドル／円 160円アライウンドのその水準には、『介入を期待してのドル売り（円買い）』が待ち構えている。

一方で、160円台ないしは 161円程度には、大口のストップ・ロス（損切り）も控えている、と考えます。

その『介入を期待してのドル売り』を、飲み込んで、大口のストップ・ロス（損切り）を付けに行く、大口の投機筋が、居るか？否か？

それは、事前には、誰にもわからない。

++++
++++

こういう時の対応方法は、いつでも、逃げられるように、準備しながら、相場に臨むこと。

『へっぴり腰』『および腰』と、言われようと、『臆病者』と、言われようと、構わない。

『死んで勇者』と、呼ばれるよりも、『生きて臆病者』と、呼ばれたい。

『臆病』は、『卑怯』ではない。

『臆病』は、『敬謙なる畏れ』を知ることであり、『臆病』は、恥ずかしいことではない。

『臆病』は、『知恵者の証』であり、『経験』だ。

『臆病でないこと』は、『無謀』『蛮勇』『無知』なだけだ。

それを、『匹夫の勇』と、呼ぶ。

++++
++++

(2024年06月25日東京時間13:55記述)